



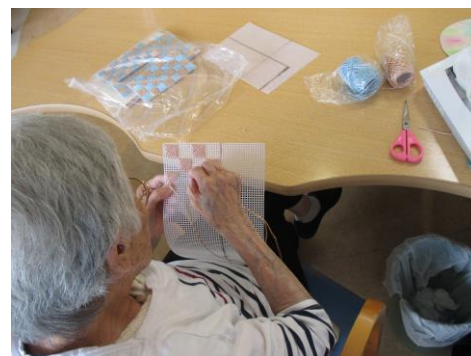
ネット手芸 (4階フロア)

コロナ禍で行事も中止になる中、4階では、プラ網に色付着きの糸を通し、入れ物やバック、筆箱、カゴ、ティッシュケース等、様々な物を作成しています。

「ほら、ちょっと見て、これ作ったの」と嬉しそうに作品を見てくださり、「凄いですね」と言うと、「ボケ防止だよ」と謙遜され、楽しそうに制作に励まれます。



また、何名か一緒に作成されているので、コミュニケーションをはかりながら制作でき、一人で頑張るのではなく皆で楽しく頑張るとの意識でやっておられるのかなと思います。



出来た作品を紹介されている時の嬉しそうな眼差しは輝いていました。

介護福祉士 舘 一郎

華道 (3階フロア)



3階フロアにて、毎月2度華道を行っています。コロナ禍になり、外出する機会も減り、お花を観ることも少なくなった中、季節にちなんだお花を選び、ご利用者様本人に挿して頂こうという活動を行いました。

ご利用者様からは「今日はどんなお花なの？これ見た事あるお花ね！」など色々な声が上げられます。ささっと決めてささっと挿す方や、悩んで挿し直す方など、さまざまでした。

生花をされているご利用者様の隣では、「綺麗なお花ね！こちらのお花の名前は？」とお話しをされながら剣山に挿している方もいました。今回は上手く出来たとご利用者様も笑顔で、満足そうな表情をしている姿も見受けられました。

介護職員 高橋 愛



オリジナルうちわづくり（デイケア）



今年度の夏の作品作りとして、ご利用者様にオリジナルのうちわを制作していただきました。白無地のうちわに、様々な絵柄を切り抜いて貼り付けます。

夏祭りや花火などの夏らしい図柄や、涼し気な金魚の絵、水着を着た？ねこちゃんの図柄など季節を感じるものや、可愛らしい図柄が人気です。また絵を描く事が得意な利用者様から、と



ても可愛いイラストを提供していただき、切り絵に切り抜いてうちわに貼っている方もいらっしゃいます。

切り抜いた図柄を、まずは白無地のうちわの上に並べて、貼る位置を決めます。位置が決まると職員が糊付けを手伝ってどんどん貼っていきます。図柄が足りなくなってくると（需要と供給のバランス？）ハサミで図柄を切り出す職員は大忙しです。



ご利用者様が貼る手順に慣れてくると、どんどんスピードがあがって来るため、職員は焦りながら、時々自分の指も切りそうになりながら各貼るスピードに間に合うようにチヨキチヨキ。。。。

意外と人気があったのが猫ちゃんの絵柄。中には全て猫の絵柄を貼ったご利用者様もいらっしゃいました。

約半数のご利用者様がオリジナルのうちわを作成されましたが、まだまだうちわは残っていますので、寒くなってうちわの出番が無くなる前に「こんなうちわを作りたい！」などのご希望がありましたら遠慮なく職員に声を掛けてくださいね。

介護福祉士 北垣 志郎

9月行事予定

音楽施設長の演奏会

9月29日（3・4階フロア）

9月30日（5階フロア・デイケア）



【編集後記】 徐々に暑さが和らぐ季節となりました。散歩をするにも過ごしやすく、少しずつ夜も長くなってきます。ゆったり過ごせる良い季節ですね。秋と言えば、食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋、芸術の秋、などと言われていますが、皆様はどのように秋を楽しみますか？！ ウェストケアセンター広報委員会一同

発行元 介護老人保健施設ウェストケアセンター

発行年月日 令和四年九月十日

〒192-0151 東京都八王子市上川町 2135

TEL:042(654)5511

Fax:042(654)7716

<https://west-care.jp/>

リハビリテーション科ご紹介



現在、リハビリテーション科には理学療法士 4 名、作業療法士 4 名、言語聴覚士 1 名の常勤職員と非常勤職員 7 名の計 16 名で在宅復帰に向けた準備や在宅生活を支えるために必要なリハビリテーションを提供しています。

リハビリ内容は医師の指示の下、リハビリスタッフがご利用者様それぞれに対して個別の評価を行い、“その人らしさ”を尊重しながら今後の生活を送る上で困らないように各々に合わせた専用のリハビリテーションプログラムを立案・実施して

います。また、日々リハビリテーションを実施していく中で常に身体機能、認知機能の評価を行い、能力や体調に合わせ、自助具の選定から環境設定まで行いながら支援しています。



以前ご入所されていた方に“自宅に帰りたい”という思いの強い方がいらっしゃいました。その方は独居であったため、在宅復帰するにあたり家屋内での安全な移動をはじめ、食事の準備や入浴、排せつ、買い出しなど多くの問題を抱えていました。

入所時は車椅子で生活されていましたが、筋力訓練、立ち上がり訓練、歩行訓練、床上動作訓練、屋外歩行訓練、日常生活動作訓練など日々の訓練の中で徐々に難易度を上げ、課題を克服していきました。その結果、屋内では独歩、買い出し時はシルバーカー歩行にて無事にご自宅へと帰ることができました。現在でも自身で買い出しに行ったり、自宅で入浴したりしながら元気に過ごしていると報告を受けています。



また、当施設の通所リハビリでは、利用者個々に対して、幅広い目的で訓練を実施しています。その中では、車への移乗をはじめとした生活に則した動作訓練から籐細工等の手作業、畑仕事や山登りのような趣味活動の再開支援まで行っています。ご家族にも協力をお願いして、ともに目標達成まで目指せるように支援しています。



さらに、定期的に勉強会や症例検討会を開き、知識・技術の向上に努めています。今後もリハビリテーション科職員一同サービスの向上に努めていきたいと思ひます。何かご質問などございましたらお気軽に施設へご連絡いただければ幸いです。

理学療法士 山中 遼太

フルーツポンチ作り (テイケア)

8月29日、30日にフルーツポンチづくりを行いました。デイルーム内の中央にテーブルを用意して、「今から大きなスイカの解体ショーを始めますよー！」と利用者様に声掛けをして、テーブルの周りに集まって頂きました。

「今日は大きなスイカを用意しました！」と、テーブルにスイカを置くと「大きなスイカね」

「立派なスイカ！」など笑顔で話されていました。職員が「さ

あ、これから真ん中から切って、中身をくりぬき、スイカを器にしますよ」など説明しながら、作業を進めていきます。



スイカの中身を綺麗にくりぬき、種を取り除きます。デイルームの中では、スイカの良い匂いでいっぱいです。「いい匂い」「美味しそう」「つまみ食いさせて～」などの声が飛び交いました。綺麗にくりぬかれたスイカは、ま

るでスイカの帽子のようです。「かぶれるわよ」「テレビでやってるとそっくり～」またまた大盛り上がりです。

次はスイカの帽子の中に、くりぬいたスイカの実とフルーツミックス缶詰を入れていきます。仕上げはサイダーを入れて完成です。「綺麗に出来たわね」「あれ食べられるの」見て楽しんで頂いておりましたが、既に食

べたいモードに突入。透明のプラチックカップに取り分け、上にサクラamboを飾り付け皆様にお配りしました。



「もう食べていいの」「美味しい」「綺麗」「こんなの久しぶり」「これフルーツポンチじゃないの？」「最初からそう言ってたじゃない(笑)」など…会話もはずみ、皆様、喜んで召し上がって下さいました。とても楽しいイベントが出来ました。

介護福祉士 河原 やす子

